



イラスト・題字：長峯亜里

2023年の年明けアメリカ政治運営は大きく変わる。下院は共和党、上院は民主党多数というねじれ議会が発足するからばかりでない。20年間下院民主党のトップであったナンシー・ペロシがその地位を去ったからである。

ペロシ氏って誰？

ペロシ氏は2019年から4年間下院議長という議会運営で絶大な権力をもつだけでなく、大統領継承順2番目の立場にあった。女性初の下院議長となったのはブッシュ政権時の2007年、2011～19年は下院民主党指導者だった。

彼女の名前が日本のメディアでも大きく取り上げられたのは昨年8月の訪台だろう。多くの米国議員や閣僚、軍関係者が訪台しているが、大統領継承順2位の同氏の訪台ほど中国を激怒させたものはない。中国はさすがに同氏の搭乗機を狙うことはなかったが、訪台後台湾上空に戦闘機を飛ばすなど「軍事演習」を続け、一步誤れば米中の軍事衝突かという緊張状態となった。

議事堂襲撃(2021年1月)時には、トランプ大統領(当時)支持者がペンス副大統領(当時)に次いで殺害のターゲットとして同氏を狙い、「ナンシーはどこだ」と議事堂内を探し回った。24時間の警護がついているが、昨年同氏の不在中、代わりに夫であるポール・ペロシ氏が自

宅で襲撃された。

2020年のトランプ大統領の一般教書演説が終わった途端、下院議長として大統領の後ろに立ったペロシ氏が演説のコピーを引き裂いたのも印象的だった。嘘の部分に切れ目をいれていたが、あまりに多くとうとう最後に破り捨てたそう。



トランプ米大統領(中央)の一般教書演説の原稿を破るペロシ下院議長(右)(ワシントン、2020年2月5日)
(AFP＝時事)

「駄々っ子のかんしゃくよ」

ペロシ氏はトランプ大統領を恐れず、いらだたせる唯一の女性だろう。

トランプ氏は、5番街で人を射殺しても票は失わないと豪語し、女性や人種差別的暴言を吐き、過ちを認めず批判を受け入れられないナルシストである。しかし、草の根党員たちの絶対的支持を得、特に大統領時代は共和党の政治家たちに恐れられた。逆らえばつぶされる、大統領より目立てば閣僚でも叩かれ、ライバル、ましてや民主党政政治家は容赦なく攻撃された。意地の悪い、でも的を射たあだ名をつけ、相手を追い詰めるのはトランプ氏の才能である。

2016年大統領選挙では、対抗馬のヒラリー・